

ヤルコ・トンティ (フィンランド)

1971 年生まれ。フィンランドの詩人、小説家、弁護士。詩集のほか、長編小説やエッセー、
文芸批評を発表。人権活動家として、コラムニストとしても知られる。その詩は英語、ロシア語、ポルトガル語に翻訳されている。作家になる前は公務員で、ヘルシンキやベルリン、ブリュッセルの大学で教壇に立った時期もある。

エレベーターに乗れば

エレベーターに乗れば
いつも君といっしょ
地下格納庫にひそむミサイルよろしく
ぼくは自信いっぱい飛び出す
交差点で人に突っ込むSUV と化し、
頑丈さは折り紙つき、ドアが閉まり
チケットを見せろと言われ (なにしろ高くて高価なビルだ)
階段は閉鎖
君といっしょに ぼくは昇った
最上階まで、コンクリートを砕き、屋根を突き抜け
空までも、
煙と霧を、硫黄の黄色とぜん息の雲を
突き抜けて、青い紙の地球に巻きつく嘘を
突き抜けて。君といっしょなら、
陰気なやつらを置き去りに
ぼくは飛び立つ、今宵
 昼間よりまぶしい夜
 君といっしょ
 昇るときは いつだってまぶしい。

2006 年の詩集“Vuosikirja” (年譜) 所収
(ローラ・ロジャースによる英訳をもとに訳出)

(翻訳 沢田博)